

青森県から北海道へ

氏名 村川圭亮

青森県立むつ養護学校 → 北海道拓北養護学校

(期間：平成29年4月1日～平成31年3月31日)

1 青森県やむつ市の教育

○ 特別支援教育の推進

むつ市では平成29年度からの5カ年計画で教育大綱を策定しており、「1 学力の向上、2 体育・健康教育の充実、3 夢を育む教育、4 地域とともにある学校」の4点を基軸に据えている。

中でも「3 夢を育む教育」の重点項目として「特別支援教育の充実」が挙げられており、全教職員が一丸となった指導・支援の充実や、個別の教育支援計画等の活用、子供たちの個性を活かした主体的な進路選択、教育相談体制の充実が掲げられている。

これは青森県教育委員会から示されている全11項目ある「学校教育指導の方針と重点」の中の「7 特別支援教育の充実」とも合致しており、市町村の小中学校と県の高等学校や特別支援学校とが一体となって特別支援教育を推進していくことが明確に示されている。

2 学校や地域の特色ある教育活動

○ 地域のセンター的役割

むつ養護学校は、5市町村にまたがる広大な青森県下北地域に唯一の特別支援学校であるため、特別支援教育に関する相談や指導、助言、情報提供など、地域の特別支援教育の中心的な役割を担っている。就学前の幼児が定期・不定期に来校しての教育相談や、地域の小中学校や高等学校からの要請に応じた巡回相談、地域の関連施設や教育関係者を対象にした研修会の企画・実施など、幅広いニーズに対応している。地域に唯一であるため、本校は知肢併置ではあるが、視覚、聴覚、病弱、発達障害など、幅広い障害種の相談に対応している現状である。

○ 交流および共同学習の推進

むつ養護学校では、学習活動の充実や生活経験の拡大、地域とのつながりの深化などをねらい、交流および共同学習に積極的に取り組んでいる。近隣の保育園、小中学校、高等学校の他、地域の婦人会や老人福祉施設などとも交流の機会を設け、幅広い学習活動を展開している。また、平成28年度から居住地校交流も実施しており、地域とのつながりや卒業後の生活の充実に向けた取り組みをしている。

3 私が取り組んできた実践

○ 居住地校交流の実施と手引きの作成

むつ養護学校では、平成28年度に初めて居住地校交流を実施した。実施に先立ち、平成27年度から保護者への説明や実施希望調査、交流校との打ち合わせ、校内体制の整備などを進めていたが、初めての実施であったため本校には参考となる前例がなく、進め方や手続き、関係各所への連絡など、全てが手探りの中で進めることとなった。

そこで、平成28年度の実施と平行して、実施に関わる事項や実施する中で生じた課題などをデータ化し、むつ養護学校における居住地校交流の手引きを作成していくことにした。

私は平成28年度に、居住地校交流を希望している児童の担任となったため、実際に計画したり交流校との打ち合わせをしたりと、居住地校交流に深く関わることができた。そうした取り組みを逐一記録し、さらに次年度以降の担当者が参考にできるよう手引きとして整理しながらまとめていった。また、国立特別支援教育総合研究所での専門研修を受講させていただき、そこで全国の居住地校交流の実践例や各自治体で作成している要項や手引きなどの情報を収集して、本校の手引きを補完することができた。

平成29年度は、居住地校交流を希望する児童生徒が増え、交流校も増えた。居住地校交流は本校だけで進められない取り組みなので、むつ市教育委員会や小中学校ともスムーズな連携をとるために、本校の手引きが活用され、居住地校交流の一層の推進と充実につながればと思っている。

